

トキと自然の学習館 便り

～3月の出来事～

令和3年3月

VOL.41



できごと
出来事

①

今年初の産卵



足元に卵があります

長岡市トキ分散飼育センターで、3月21日、今年初めて産卵がありました。産卵したのは4歳(2017年生まれ)のオスと3歳(2018年生まれ)のメスのペアです。

トキは1回の産卵周期で3～4個の卵を産みます。生まれた卵が有精卵で、その後の発育が順調な場合は、4月中旬頃にヒナが生まれる見込みです。



卵を抱いている様子

繁殖ケージは非公開で直接様子を観ることができませんが、学習館の大型モニターのライブ映像で右の写真のように卵を抱く様子などがご覧いただけます。

長岡市トキ分散飼育センターでは平成24年から10年連続で卵が生まれ、令和2年10月末までに43羽の幼鳥を佐渡トキ保護センターへ移送しています。

トキのたまご

できごと
出来事

②



トキの卵

トキの卵は灰緑色の地に褐色の斑紋のある模様かほどこされています。

この色合いは、葉の茂った木の枝に巣を作るため、葉から木漏れ日を受け見えづらくする保護色とされています。

同じように木の枝に巣を作るハシブトガラスの卵もトキの卵によく似ています



ハシブトガラスの卵

トキの卵はニワトリの卵より大きくて、重さは約75gです。

鳥の卵が左右非対称なのには訳があるんですよ！

左右非対称で卵がころがらず、巣から落ちづらくなるからです。